

平成17年3月15日

テストスタンダードの構想をめぐって

東京大学総合文化研究科

繁榘算男

テストスタンダードについての論点

- そもそもテストとは何でしょうか？その定義あるいは範囲は明確ですか？
- テストスタンダードはなぜ必要なのでしょうか？
- テストスタンダードは、テストのあるべき姿を示すものなのでしょうか？あるいは、テストが最小限満たすべき要件を示すものなのでしょうか？
- テストの公平性とは何を意味するのでしょうか？差別される人、障害を持つ人への配慮と両立するのでしょうか？
- テストに関する情報公開と機密保持とはどのように折り合いをつけるのでしょうか？

論点(続き)

- 外国のスタンダードの直輸入ではない、日本の“テスト文化”にふさわしいテストスタンダードは可能ですか？
- コンピュータの発達、インターネットの普遍化の時代に対応するテストスタンダードはどのような点が変わるべきでしょうか？

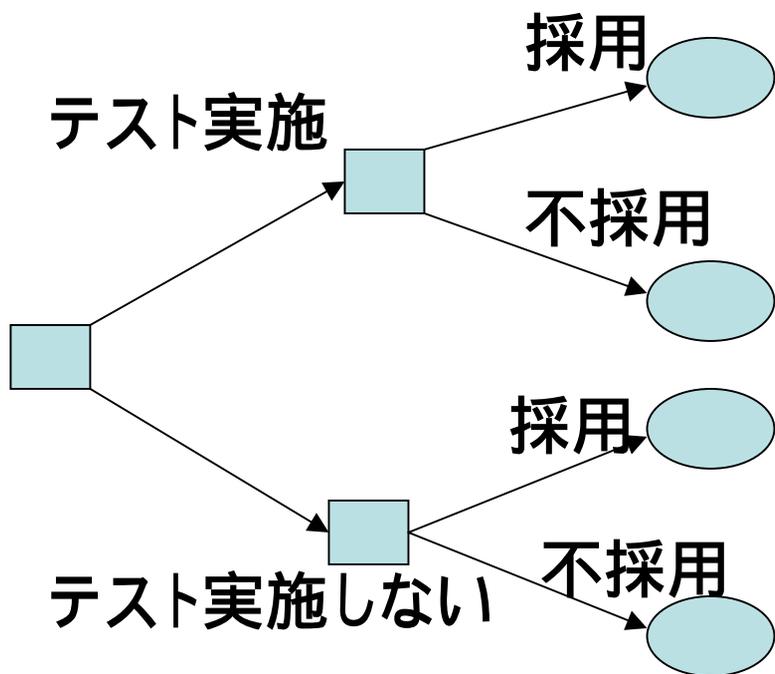
テストに必要な技能と心構え

- テストの開発、実施、結果の採点・解釈、結果の記録と保管のそれぞれにおいて、必要な技能と心しておくべきことは何か？その点で一致した見解を持てるか？（項目の作成、精選、信頼性・妥当性・公平性の確保、テスト実施の一様性、採点の客観性、記録の安全性など）

意思決定問題としてのテスト実施、あるいは、受検

- テストは何らかの意思決定と結びついている（前提、それがなければなぜテストをするのか？）
- テストを実施する（あるいは受ける）のは、そのことに価値があると思われるからであろう。
- すなわち、テストにかかるコストが、テスト情報を得た後で行われる決定の効用とテスト情報なしの決定の効用の差よりも小さいときにテストをする意味があると考えられる。

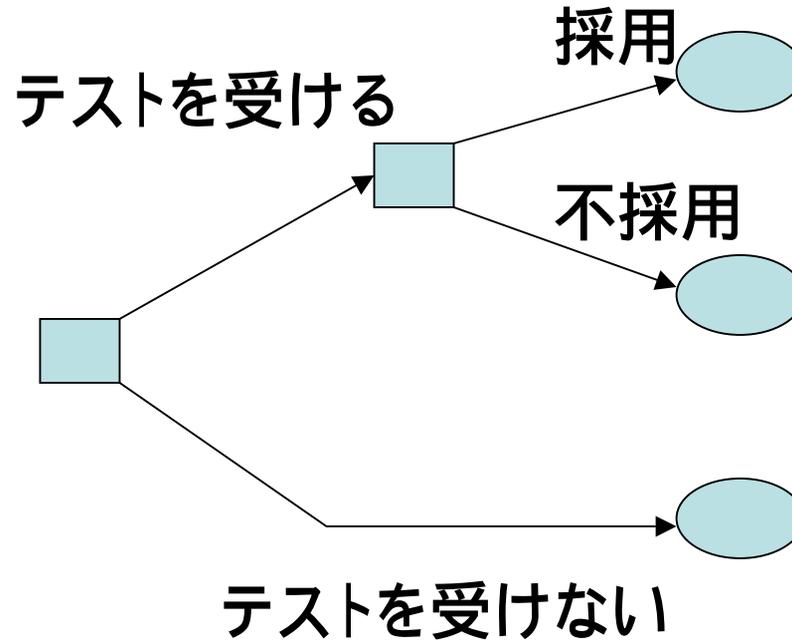
テスト実施者



結果の評価

	適格	適格でない
採用	80	20
不採用	50	100

テスト受検者



採用された場合の効用(メリット)に依存する

例題

- 例：人事院のテスト
- 目的：人材の確保（cf. 科挙）
- 人事院 テストによる採用が人材確保に効果的
- 受検者 テストを受けないと採用の可能性なし
- 例：教室の知能テスト
- 目的 かなり疑問。
- 教師 生徒をよく知る。指導に役立てる。
- 生徒 自分を知る。

意思決定問題としてのテスト

- テストに関連する意思決定問題を具体的に提示する。
- テストは意思決定に役立つ情報を引き出すことのできるツールである。
- テスト情報は、意思決定に役立つ情報のみを取り出し、残りは、捨てる。
- 受検者は自らの判断に基づき、テストを受けるかどうかを決める権利を持つ。

- いろいろなご意見を期待しています。
のちほど、Mailでもかまいません。
kshige@bayes.c.u-tokyo.ac.jp
- 単なる議論の交換ではなく、一致点を見出す
努力の一環としての研究会です。